

Alfa Romeo Spider Veloce

運命の赤い糸はどっちにつながっている!?



Fiat Barchetta

ハンサムでコンパクトな2座オープンカーに目がないスーザン史子さん。

マイカーにもフィアット・バルケッタを選んでいる。実は、そんな彼女が思い続ける憧れのクルマがある。

アルファ・ロメオ スパイダー・ヴェローチェだ。これまでなぜか乗る機会がなかったという。

で、UCGはちょっとだけ背中を押してやることにした。さて、スーザンとスパイダー・ヴェローチェの相性はいかに？

Text / Fumiko Suzan[スーザン史子] Photo / Takayoshi Matsumoto[松本高好]





試乗車はシリーズ4の5段MT仕様。搭載される2ℓ直4DOHCエンジン(126ps/5800rpm、17.0mkg/4200rpm)は1090kgのボディを軽快に引っ張る。全長4270×全幅1630×全高1290mm。ボディ・デザインを担当したのはピニンファリーナ。車両協力=コレツィオーネ世田谷店(92年式アルファ・ロメオ スパイダー・ヴェローチェ 走行5.6万km 価格158万円) Tel.03-5758-7007



96年に上陸した先代のフィアット・バルケッタ。全長3920×全幅1640×全高1265mmのコンパクトなボディに1.8ℓ直4DOHCユニット(130ps/6300rpm、16.7mkg/4300rpm)を搭載。車重は1090kg。5段MTを介して前輪を駆動する。ボディ・デザインはフィアット社・デザインセンター。99年には限定モデルのリミテッドエディションも登場している。撮影車両はスーザン史子さんのマイカー(96年式)。



ワタシがフィアット・バルケッタを買ったのは、2年ちょっと前。それまで乗っていたマセラティ430は、いつ止まってしまうかわからない感じで、もうワタシには手に負えん!って思ったのよね。

そこで、ちゃんと仕事の足としても使える左ハンドルのオープンカーを探していたら、雑誌でこのマーレブルーのバルケッタを見つけたってわけ。イタフラ系を専門に扱うそのお店には、スパイダー・ヴェローチェも何台か止まっていて、「ああ、めちゃくちゃステキ〜」

なんて思ったけれど、信頼性を考慮し、このバルケッタに決めたのです。

なんせ、生まれる前のことなんでよく知らないけど、このカタチのアルファ・スパイダー・ヴェローチェって1966年から製造が始まって、この92年製が最終型になるのね。もちろんこの型もステキだけど、もっと古い型は、レトロ感たっぷりの内装に、スポークが銀色に輝く華奢なステアリング・ホイールがついているの。いつ止まってもおかしくない危うさと、薫り高い色気とが共存していて、見

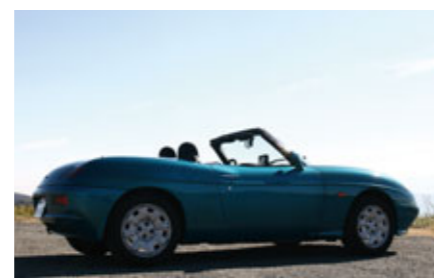
ているだけでもうっとりしてくるのよね。

そんなわけで、憧れてはいたけれど、運転はしたことがなかったヴェローチェ。実際に向き合ってみると、

タッキーみたいな、学年一イケてる男子に告白するような気持ちでかなりドキドキしまひた〜。

本場の味に胸キュン!

エンジンをかけてみたら、肺いっぱい息を吸い込んで、横隔膜を思いっきり震わせて吐き出すような力強い呼吸(?)にビックリ。MTのギアが入りにくいところなんかは、マセラティ430に似てるかも。単に古いからなのか、イタリア車の味なのか。とにかく、70年代半ば生まれのワタシにとっては、ある程度年代を経た古いクルマは、自分の知らない世界を案内してくれる夢の乗り物って感じで、すごく新鮮なの。



それに今日は特に空気が澄んでいて、芦ノ湖スカイラインから眺める富士山は、裾野までくっきりの絶景ときてる。オープンにして走っている自分の姿をズームアウトして

みると、富嶽三十六景の大判錦絵の中のひとコマになった気がしてくるから不思議。いつもとまったく違う色彩が広がっている!

そんな中、“プロプロプロ”と、重低音が心地よく震える濃厚なアルファサウンドを聴いていると、いつのまにか、緊張の糸がほどけて、ゆったりとした気分になってくるの。

ああ、ええなあ〜。

そんな濃い味のヴェローチェのあとにバルケッタのエンジンをかけてみると、「えっ!? マジでエンジンかかっているの?」と、もう一度イグニッションを回してしまったぐらいの薄味で。

「なんなのよ!! これじゃ、まるでしょうゆ味の和風バスタじゃない!!」

やっぱり本場のバスタは、ヴェローチェの方だったのね〜。

大人の女になってから?

そもそも、フィアットとアルファ・ロメオをいっしょくたに考えたのが間違いだった。アルファ・ロメオって、戦前からツインカムエンジン作っちゃって、自動車メーカーの貴婦人みたいな、伝統のある会社でしょ? 一方フィアットは、いってみりゃ大衆車ブランドだから、エンジンも万人向けの薄味だったのね。同じイタ車といっても、全然別モノだったことに今頃気づいちゃいまひた。ちえっ。

ヴェローチェを運転したことで、これまでのバルケッタに対する印象がガラガラと崩れ、急に、本気で欲しくなっちゃったワタシ。そこで、自分の中の二人の小人がささやく。

「バルケッタだって、捨てたもんじゃないわよ。充分カッコいいし色もきれいだし。ヴェローチェ

が欲しい!! って思っちゃたのは、いきなり目の前にイケメンが現れて、『キミが好きだ!』とか言われて、フラフラ〜って『ワタシも好き……』って答えたようなもん。でも冷静に考えたら、バルケッタより年寄りだし、将来のことを考えたら、加齢臭ブンブンだったマセラティの二の舞よ。こういうのは、足グルマを持って、2台目の趣味グルマとして持つのが大前提。まずは、もっとオトナの女になって、心の余裕と、お金の余裕

を手にいれなきゃ」

「でも、もっとオトナになってからって、それって単なるババアってことでしょ? その頃はもう、自分もこのクルマ以上に老朽化が進んで、乗れなくなる可能性だってあるじゃない! 花(のつもり)の命は短いよ!」

“どーすんの? どーすんの、オレー!!”ってな感じで、どっかのCMみたいに、今はどちらのカードをひくか、迷っております。

